

## 血液ガス分析装置の入れ替えで行った業務改善について

◎神尾 武<sup>1)</sup>、神澤 和樹<sup>1)</sup>、山田 貴士<sup>1)</sup>、御手洗 友海<sup>1)</sup>、猪浦 一人<sup>1)</sup>  
埼玉県済生会加須病院<sup>1)</sup>

【はじめに】当院では以前ラジオメーター社製血液ガス分析装置 ABL800 を 2 台保有していた。定期メンテナンスやトラブル対応には技術力を有した技師が対応し、作業時間は復帰に 1 時間以上かかる事も有り、改善が求められていた。病院移転に伴い機器を入れ替え、新たにメンテナンスの簡便さ、ISO に対応出来るシステム、精度の高い結果が期待出来る機器を導入して行った改善点を報告する。

【機器】ラジオメーター社製 AQURE POC 機器管理システム（以下、AQURE）ABL90FLEXPLUS を 1 台、ABL90FLEX を 3 台導入した。AQURE 端末は検査室、血液ガス分析装置は救命救急センター、ICU、手術室、仮設コロナ病棟に配置した。

【結果】AQURE の導入により、検査室に設置した端末で 4 台のリアルタイムでの機器管理が可能となった。以前は回路の詰まりや校正エラー等の突発的なトラブル対応は後追いとなる事が多かったが、AQURE 導入により先行して技師が対応する事が出来るようになり、速やかな対処が可能となった。校正や精度管理は、検査室の端末からリモー

ト操作で出来るようになり、1 時間以上かかっていた作業時間も短くなり、他業務を行いながら機器の対応をすることも可能となった。機器の入れ替えで消耗品の運用が変わったが、各機器の使用頻度が端末で把握出来ることで、より効率的な運用と在庫管理が出来るようになった。電極と試薬はそれぞれカセット構成であり、交換作業は簡易に行うことが出来る為、技師の技術的負担も軽減された。

【考察】AQURE と新たな血液ガス分析装置の導入により、リアルタイムでの機器管理や校正等の作業は端末で検査室から可能となり、技師の負担と携わる時間は大幅に軽減された。今後は更なる負担軽減や効率化、臨床に沿った検査の提供を考えていきたい。

連絡先：0480-70-0888（内線：2079）